

プロジェクト単位での情報共有手段として活用

株式会社ナムコ AM技術環境グループ 様(以下AMグループ)では、複数のプロジェクトが併行して走るグループ内の情報共有手段として、プロジェクトAを選択いたしました。ナムコは、“遊び”の事業化をテーマにアミューズメント機器や家庭用ゲームソフトの販売からアミューズメント施設の運営まで幅広く手がける総合エンターテインメント企業です。今回は、AMグループへの導入を推進された大久保氏にお話をお聞きました。

会社名：株式会社ナムコ
部門名：AM技術環境グループ
設立：1955年6月1日
資本金：27,369,117,031円(2003年6月末現在)
URL：http://www.namco.co.jp/

事業内容：業務用ビデオゲーム機、エレメカゲーム機、メダルゲーム機、乗物等アミューズメント機器およびシミュレータの開発、生産、販売
家庭用ビデオゲームソフト、福祉機器等家庭用製品の開発、生産および販売
直営アミューズメント施設レニューシェア(アミューズメント機器のオペレーション売上歩率配分方式)テーマパーク等の運営
アミューズメント機器および家庭用ゲームソフトの生産、販売の許諾ならびに関連商品の商品化許諾
映画の企画、制作、配給および興行、ビデオソフトの販売ならびにコンピュータグラフィックス映像の賃貸
コンピュータグラフィックスを使用したゲームクリエイターの育成事業・通信回線を利用したソフトウェアの提供および販売
介護ビジネスに関する企画・立案 エンターテインメント施設に関する企画・設計・施工及び運営の提案

namco®

ユーザーコメント

- しっかりしたメーカーサポートをしてもらえた。
- 必要な相手とだけのセキュアな情報共有の場ができる。
- 情報共有の場を頻繁に作っても、管理者いらす。
- オフラインでも使える便利さを実感している。
- プロジェクトの生産性がある。



株式会社ナムコ AM技術環境グループの皆さん
右端が大久保氏

導入の背景

膨大なメールのやりとりの中で
重要な情報が埋もれてしまう。

AM技術環境グループ(以下AMグループ)では24名程のメンバーで、ゲームセンターのようなアミューズメント施設向けのアミューズメント機器の開発を手がけています。24名は、4チームに分かれて組織されていますが、その4つのチームとは別に、1名から5名程度のメンバーによるプロジェクトチームが複数形成されています。そして各プロジェクトチームは、開発に伴う技術的な情報を共有する必要があります。

従来はニュースグループやEメールを使って、プロジェクトチーム単位で必要な技術情報を共有し、プロジェクトの進捗管理については、Excelなどで作成した紙のドキュメントを10日に1回程度のペースで持ち寄り、ミーティングを行うという方法をとっていました。

「ニュースグループやEメールでの情報共有では、一日のやりとりが膨大な数になってしまい、重要な情報が埋もれてしまうという困った問題がありました。

また、Eメールに添付しての複数の人とのファイルのやりとりは、各段階でのファイルがそれぞれにバラバラに送付されたため、全体としてどのファイルが最新なのかがわからなくなるなど、ファイルのリビジョン管理にも問題も抱えていました。(大久保氏)」

選定のポイント

全社で使うグループウェアとは別に自分たちの
プロジェクトのためのツールが欲しかった。

ナムコでは、プロジェクトAを導入いただく以前から全社用のグループウェアは既に導入済みでした。

「全社のグループウェアには、電子メールのほか、社内の情報共有のためのフォーラム、掲示板などが既に存在していました。ですから、単に別のグループウェアを探していたわけではありません。私たちが必要としていたのは、グループウェアというよりも小規模なプロジェクトを管理するためのツールでした。

ナムコでは、業務用ビデオゲーム機やゲームソフトの開発からアミューズメント施設の運営まで、各事業部によって業務内容が大きく異なりますが、私たちAMグループのためだけに大規模なシステムを導入することは、現実的ではありません。そこで、AMグループだけで導入・運用ができるプロジェクト管理ソフトがないかをインターネットで探したのです。そこで、プロジェクトAを見つけました。(大久保氏)」

また、AMグループでは「選任のシステム管理者を置けない」という悩みがあり、サーバー型のグループウェアの選択は困難でした。こうした条件からも大久保氏は、サーバーなしで導入できるプロジェクトAに興味を持ったそうです。

導入までの流れ

従来の問題点やニーズ

- ・Eメールやニュースグループでは必要な情報が埋もれてしまっていた。
- ・ファイルなどのリビジョン管理が困難。
- ・導入済みの全社的なグループウェアでは不十分。
- ・専任のシステム管理者を置くことは困難。

『アリエル・エアワン・プロジェクトA』のココが決め手

検討～採用に至ったポイント

- ・プロジェクト単位での情報共有が可能。
- ・サーバーなしで情報共有が可能。
- ・試用期間と充実したサポートに満足。

『アリエル・エアワン・プロジェクトA』にすると

情報共有のための会議が10日に1回から30日に1回へ

導入効果を生んだ理由

- ・最初の設定もルールの作成もとても簡単。オフラインでも活用できる。
- ・セキュリティも確保されている。
- ・プロジェクト機能とToDo機能の連携。

Ariel Pro AirOne

導入にかかった労力

しっかりした
メーカーサポートをしてもらえた。

次にプロジェクトAの導入を決定してから、実際に運用をスタートするまでの感想を伺ってみましょう。

「最初ウェブサイトからダウンロードして数名で試用版を試してみた際には、いくつか設定等で分からない部分がありました。が、サポート担当の方とやりとりをさせて頂いた後は、自分達だけで設定することができました。試用期間中にもしっかりとサポート対応をしてもらえたので安心して購入することができました。本格導入を睨んで試用できた点には、大いに満足しています。(大久保氏)」

導入メリット1

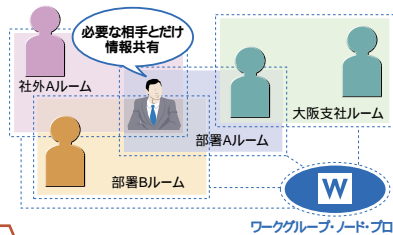
必要な相手とだけの
セキュアな情報共有の場ができる。

AMグループでは、複数のプロジェクトが同時進行することが普通です。そのため、プロジェクトAの機能のうち、「プロジェクト毎にルームを作って情報共有を行うことができる点」が大久保氏たちにとって最も大きなメリットになっているようです。

「グループのメンバー間での情報共有というのは、もちろん重要です。特にスケジュールのようなお互いに把握するべき情報は、全員で共有すべきだと思います。ただ、個別のプロジェクトにおいて、開発しようとする機器の仕様や進捗状況等の情報はそのプロジェクトメンバーにしか必要ありません。グループ全員で共有してしまうと、プロジェクトメンバーでない人にとっては、余計な雑音になってしまいます。

その点、プロジェクトAの場合は、必要な相手とだけ情報を共有する場をプロジェクト単位で作ることができます。

しかも、ルーム単位でセキュリティも確保されていますから、安心して情報共有することが可能です。(大久保氏)」



導入メリット2

情報共有の場を頻繁に作っても、
管理者いらず。

次に大久保氏は、P2P型のツールならではの管理上のメリットも強調していらっしゃいます。

「情報共有の場を作成することまで担当者レベルでやれるのは、P2P型のアプリケーションならではのですね。サーバー型のシステムでは、プロジェクト単位で情報共有できるものはあまりありませんでした。それに私たちのように頻繁に情報共有の場を作ったり、消したりすると、さぞかし管理者は大変になるだろうなあと感じます。(大久保氏)」

導入メリット3

オフラインでも使える便利さを
実感している。

さらに大久保氏は、選定時にはあまり意識していなかった「オフラインでも使える」というプロジェクトAの特長が、思った以上にメリットが大きいことを実感していらっしゃいます。

「個人的に一番気に入っているのが、オフラインでも利用することができる点です。私の場合、自宅、外出先などの社外で議事録をオフラインの状態で作成して、会社に戻って同期するという使い方非常に重宝しています。(大久保氏)」

プロジェクトAは、共有したデータをパソコンに取り込んでいるため、回線状況を気にすることなく、オフラインでも使うことができます。また、大久保氏のように簡単に複数のパソコンで使える点も、プロジェクトAが情報共有を推進する秘密です。

導入メリット4

プロジェクトの
生産性があがる。

また、プロジェクトAではプロジェクト管理者が業務のあるプロジェクトメンバーに依頼すると、そのメンバーのToDo画面に業務が表示されます。そしてメンバーは、自分のToDoだけを見て作業すれば、自動的に全体計画に沿った作業を行うこととなります。そして、メンバーがToDoのステータスを変更すると、プロジェクト管理者に通知されると共に、プロジェクトのグラフが自動更新されます。こうした仕組みによって、「各メンバーから口頭やメールで情報を収集して、進捗情報を変更して...」といった管理業務が容易に自動化されます。

プロジェクトAによって、AMグループではメンバーの生産性向上が既に見え始めています。

「以前からExcelで作成した進捗報告を10日に1回の割合で持ち寄って進捗会議を行っていました。しかし今後は、プロジェクトAで日々の状況が確認できますから、1ヶ月に1回の開催でもいいのかと考えています。(大久保氏)」

こんな使い方も～個人情報整理として～

「プロジェクトAはルームも個人単位で作成できるので、「自分一人のルームを作って、そこで個人情報整理をする」といった使い方しているメンバーも結構います。こんな具合に、我々のような個人個人が比較的自立して仕事を行うようなビジネススタイルの会社には、特に向いているアプリケーションだと感じますね。今後もがんばって、より使いやすくして欲しいと思います(大久保氏)」

製品に関する最新情報、資料請求、お問合せ、オートデモ、
無料試用版はホームページをご覧ください。

<http://www.ariel-networks.com/>

記載された社名、各商品名は各社の登録商標または商標です。